



# 那霸市立教育研究所 所報

令和7年度12月号

所長 棚原 歩

「情報モラル教育」について

社会のデジタル化が急速に進む中、子どもたちは家庭で学校を問わずインターネットに触れる機会が大幅に増えています。オンライン上では、地域を超えて匿名性の高い空間で瞬時につながり、便利さと同時に、誤情報の拡散やネットいじめ、不適切な情報発信などの危険にもさらされています。このような環境に生きる子どもたちが安全にデジタル社会を歩むためには、「日常のモラル」に加えて「情報モラル」、さらには参加する態度と責任感を重視した「デジタル・シティズンシップ」の視点が不可欠です。本市では、これらの背景景を踏まえ「情報モラル教育」について下記のとおり概要を紹介します。

※詳細については、那覇市立教育研究所用からご参照ください。

(3)授業の中での工夫  
（4）評価と振り返り

（5）デジタル・シティインシップの視点を重視する

（6）デジタル社会での主体的な参加や責任ある行動を学ぶため、オンライン上の言葉遣い、情報表現などを用いる。また、写真撮影や資料作成の場面では、著作権や個人情報の扱いも具体的に示すことで、行動を結びつける学びとなります。

（7）指導後の評価と振り返り

（8）活動の振り返りで、「気を付けた点」「よりよくできる点」を言語化させることで、思考が深まり、行動改善につながります。○×形式のストートではなく、考え方や判断を問う形式の評価が有効です。

第125期教育研究員	□ ■ □
古堅貴子研究員〈保育〉	
砂川祥子研究員〈外国语科〉	
與那城武一研究員〈自立活動〉	

☆☆☆ 各種研修・講座等 ☆☆

指導案検討会

**4 教育研究所としての支援**  
本市教育研究所では、実践会の実施、教材提供、情報モラール教育およびビデオ・シティ・シンプ教育の充実実験を推進してまいります。子どもたちが安全で、デジタル社会を生き抜き、主体的に社会へ参加できるよう、今後もご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(5) いと「酉年のこと」と言ふ鉛筆をもつて、白い行動を振り返り、よりよい使い方を考える習慣づくりにつながります。

家庭・地域との連携

家庭でのデバイス利用ルールづくりを話し合う活動や、図書館・警察署・関連機関と連携した講座の実施など、学校外の環境とつながる活動が飛びを深めます。

の中では「どう考え、どう行動するか」を育てることを目指すと共に、情報発信の責任、著作権・肖像権の理解、誤情報への対応、健康と安全を守るためにデジタルとの付き合い方などは、児童・生徒が日々直面する場面と深く関わっています。また、デジタル技術を活用して社会に参画する、手を尊重しながら自分の行動をとる力を育成する、「デジタルシチズンシップ教育」や「情報モラル教育」の延長ではなく、共に推進すべき学びです。

学校での情報モラル教育は、特別な時間に限定されるものではありません。国語・社会・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など、多様な場面の中で学びと生活をつなぐ形で扱うことと、子どもたちの行動として定着しやすくなります。

情報モラルとは、情報社会において適切に行動するための考え方や態度のことを目指します。インターネットやデジタル機器が子どもの生活を根付く現代で、子どもにとって、情報モラルは「守るべきルール」だけでなく、「子ども自身が自分や他者の尊厳を大切にし、よりよい社会を築くために必要な力」へと位置付けられています。

本市の情報モラルは、「心を磨く領域」と「智恵を磨く領域」の2領域で構成し、①情報社会の倫理・②法の理解と遵守・③安全への知恵・④情報セキュリティ・⑤公共的なネットワーク社会の構築の5分野を体系的に指導することを基本としています。これらの分野は、単なる知識習得にとどまらず、日常の授業や学級活動

社会のデジタル化が急速に進む中、子どもたちは家庭、学校を問わずインターネットに触れる機会が大幅に増えています。オンライン上では、地域を超えて匿名性の高い空間へ瞬時につながり、また同時に、誤情報発信などの危険にもさらされています。このような環境で生きる子どもたちが安全にデジタル社会を歩むためには、「日常のモラル」に加えて「情報モラル」、さらには社会に参加する態度と重視した「デジタル・シティズンシップ」の視点が不可欠です。本市では、これらの背景を踏まえ、「情報モラル教育」について下記のとおり概要を紹介します。

※詳細については、那覇市立教育研究所（℡から）参考まで

「那覇市ICT情報教育推進部会実践事例サイト」の紹介  
那覇市ICT情報教育推進部会にて実践したタブレット端末等の  
ICTを活用した授業実践例の提供やその他、情報教育に関する資  
料のリンクを紹介しています。

## ◆◆◆新着図書（12月）のお知らせ◆◆◆

『「常識」を手放したら、保育が変わった』	有松徹
『学校はここまで変えられる!』	平川理恵
『いい授業の条件』	飯村友和
『子どもは罰から学ばない』	ポール・ディックス
『野中信行最終講義』 野中信行	
『きこえにくさのある児童生徒への英語指導』 河合裕美	
『[イラスト図解] 教師1年目から使える! 英語授業スキル』	増渕真紀子
『トラウマセンシティブスクール』 岩切昌宏	
『学校図書館を活用した楽しい読書ワーク』 木下通子	
『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とかけ橋プログラム』 神長美津子	
『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化的な充実のためのサポートマガジン みるみる』 文部科学省	

☆こちらのQRコードから研究所の  
新着案内を閲覧できます

